

令和4年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例

佐世保市立金比良小学校



校長：竹川 宏一

児童数：126名 学級数：9学級

所在地：佐世保市金比良町1番5号

学校教育目標

ふるさにと誇りと愛着をもち
夢や志を育みながら
たくましく成長する児童・生徒の育成

1 目的

本校では、教育目標の具現化に向け、以下のことを中心として特色ある学校づくりに取り組み、「知」「徳」「体」のバランスのとれた児童の育成をめざす。

- (1) コミュニティスクール初年度としての円滑な活動
- (2) 確かな学力の定着
- (3) 小中一貫型教育の更なる推進
- (4) 外部人材・施設の積極的活用
- (5) 英語教育の推進(コミュニケーション能力の育成)

2 実践内容

(1) コミュニティスクール初年度としての円滑な活動

- ① 今年度からコミュニティスクールとしてスタートした。学校運営協議会の実施、地域学校協働本部との連携を深めながら熟議を重ね、順調に教育活動を展開することができた。民生委員、自治協議会、児童交流センター等、地域の方々とのパイプも太くなり、次年度に向けて更に充実したものにしていきたい。
- ② 光海・金比良地区のコミュニティスクールとしての活動が評価され、文部科学大臣賞を受賞することができた。
- ③ こんぴら博士になろう(3年)、ミシンで作ろう(5年)、そろばん(3年)、昔あそび体験(1年)、夢を語ろう(6年)、読み語り(全学年)等、多くのCSサポーターが来校され、ご協力いただいた。担任だけでは難しい学習内容も、CSサポーターのお陰で児童の理解が深まった。



(2) 確かな学力の定着

- ① 課題の明確化、タブレットの活用、家庭学習との連携(前年度より継続)

夏季休業中に、全国・県・市の学力調査問題に全職員で取り組み、問題の傾向や担当学年で重点指導する内容等を把握した。また、調査結果を分析し、各学年における課題と課題克服に向けての授業改善策を共有した。授業では、主体的・対話的で深い学びにつながるように「かいて、伝え合う学習活動」を意図的・計画的に行ってきた。タブレットの活用については、教師も児童も操作に慣れ、いろいろな学習ソフトを活用し、練習問題等に取り組むことができた。1月に実施した学力調査を検証の一

つと捉え、授業や家庭学習を通して課題にこだわった指導を繰り返し進めてきた。特に、家庭学習では「家庭学習がんばり週間」を設定し、机に向かう時刻、課題に取り組んだ時間と内容を振り返らせ、家庭学習の習慣化を図った。また、タブレットを家庭に持ち帰って、課題等に取り組んだ結果をカードに記録し、家庭と学校で児童の取組を共有した。

② 少人数及びTTの指導

3～5学年で算数の時間を中心に習熟度別学習や少人数指導、TT指導を実施し、基礎学力が定着するよう、個に応じた指導を行った。また、コロナ禍における長期欠席児童に対して、未学習の内容を個別に指導し、学習の遅れを取り戻せるように配慮した。

③ 学力調査の実施

1月には、年度始めに取り組んだ全国・県・市の学力調査に再度取り組み、各学年で学力向上に向けた指導の有効性を確かめた。さらには、全学年で国語と算数の標準学力調査を実施した。その結果を分析して今までの指導の成果と課題を明確にした。今年度中に課題については再度指導をするとともに、次年度の指導に生かすようにしたい。

(3) 小中一貫型教育の更なる推進

① 合同行事の開催

合同遠足、合同体育大会、合同避難訓練など、9学年がともに活動をする行事を計画・実施した。コロナ禍ではあったが、工夫をしながら全ての合同行事を実施することができた。



② 中学校教師による乗り入れ授業, 中学校での体験授業の実施

6年生は生活の基盤を中学校校舎とし、音楽専科として中学校の教師が指導し、英語を中学校の教師とT.Tで行っている。また、今年度は、2学期から理科も中学校教師が6年生に指導を行った。他学年も含めると、今年度は300時間を超える乗り入れ授業を実施することができた。更に、5年生も中学校での体験授業を経験し、次年度からの中学校校舎での生活に慣れるための動きを経験した。

③ 小中合同職員研修会の開催

年3回、小中合同の職員研修会を開催し、小中9年間を見通した各教科のカリキュラムを見直し作成をした。乗り入れ授業の充実、学校行事・授業連携・校内研修・生活指導等の教育活動や学校組織の在り方についてなど、きめ細かい情報交換を行った。



(4) 外部人材・施設の積極的活用

① 長崎平和学習

4年生は平和学習で長崎(平和公園)を訪問した。見学をする際、3つの班に分かれ、それぞれの班に、平和ボランティアの方々に入ってもらい、写真の説明や貴重な体験談などを詳しく聞くことができた。子ども達の平和に関する学びが大変深まった。



② 茶道クラブ

子どもたちが伝統文化に触れる機会として、クラブ活動の中に「茶道クラブ」を設けている。クラブの時間は毎回、地域在住の茶道の先生に教えていただいている。場所は西地区コミュニティーセンターの和室を利用した。礼儀作法や茶道の心等を学び、体験することを通して、豊かな情操を育むことができた。また、日本文化のすばらしさを体験し、日本文化に対する興味関心を高めることができた。

(5) 英語教育の推進(コミュニケーション能力の育成)

今年度、教育課程特例校の再申請を行い、令和5年度から3年間継続して取り組むことができるようになった。特例校として、全学年に英語科を設定し、英語を通じてコミュニケーション能力の素地を養う学習に取り組んできた。相手意識を持って、進んで英語に慣れ親しみ、自分の気持ちや考えを進んで表現し、相手の気持ちや考えを理解しながら、いきいきとコミュニケーションをとる子どもの育成を目指した。

① 担任、ALT、中学校英語教師による授業(全学年)

子どもたちが楽しく英語にふれ、興味関心を高め、いきいきと学ぶことができるようにカリキュラムの工夫や小中連携による授業、エレメンタリースクールとの交流活動(3年・5年)やタブレットを活用した教材開発等に取り組んだ。日々の授業では、歌やチャンツ、ゲーム等を取り入れ、子どもたちが楽しく学べる工夫をした。また、5、6年生は中学校の英語教師と協力しながらパフォーマンステストやGTEC(4技能検定。今年度は6年生のみ実施)に取り組み、英語技能の上達を実感していた。

② イングリッシュタイム

イングリッシュタイムは、月曜日の業間の時間(13:30~13:45)に英語に触れる活動として、チャンツ・アクティビティ・歌・書く活動(アルファベットに触れる)等を取り入れた。キーワードゲームやカードゲーム、CD・DVDの音声や映像を活用し、楽しく活動することができた。

③ 異文化交流の推進

本校はアメリカ海軍佐世保基地や基地関係者の居住区に徒歩で行き来できる恵まれた立地環境にある。その環境を生かし、今年度はオンラインによる佐世保エレメンタリースクールとの交流を行った。交流を通して外国籍の児童との交流を積極的に取り入れ、子どもたちが英語によるコミュニケーションを体験できる機会をもつことができた。次年度は、対面での活動ができるように準備を進めていきたい。

3 成果と課題

【成果】

- 全国・県・市の学力調査問題の傾向等を把握し、各学年における課題と課題克服に向けての授業改善を行ったことで、学力低位の児童の基礎学力を保障することができた。また、タブレットを活用した対話的な授業を工夫したり、家庭学習の充実を図ったりすることができた。
- 心の状況調査(I-check)を実施し、結果を分析することで、今年度のクラスの状況を把握することができた。特に自尊感情を高めることが必要であることが分かり、学年に応じた指導を重ねることができた。また、日々の学級経営にも反映させることができた。
- GTEC(4技能検定)の取り組みや、中学校英語教師、ALT、国際理解教育指導員による本物の英語を活用した授業を展開することにより、聞く力、話す力の向上が見られた。
- イングリッシュタイムやエレメンタリースクールとの交流などの実践を通して、英語で歌やゲームに楽しく取り組む姿が見られた。また、自国の文化を描いた絵画作品を交換する取組を通して、異文化にふれ、理解を深めることができた。
- それぞれの分野に精通した外部の方々から説明や指導をしていただくことで、児童の興味・関心・意欲を幅広く高め、理解することができた。(水泳指導、外国語、平和学習、

茶道クラブ、ふるさと学習等)

【課題】

- コミュニティスクールとしての第一歩を踏み出し、一定の成果は見られたが、今後に向けての改善点も出てきた。一つは、サポーターとして登録している方が変わらない(新規のサポーターが増えない)ということである。保護者や地域の方の理解を深め、活動を広報し、地域と学校で子どもを育てていくという共通認識を高めていく必要がある。
- 次年度の全国・県・市の学力調査を見据え、次年度当初から各学年が抱える課題を意識した授業改善に取り組み、基礎学力定着を図ることができるよう、今年度から準備を進めておく。特に、長文読解・漢字やローマ字表記(国語)、基礎的な計算、図形問題等は継続して取り組んでいくようにする。
- 地域や保護者に小中一貫型教育についての理解、さらに義務教育学校としての動きを理解してもらうために、合同行事の公開や保護者説明会等を行うようにしていきたい。さらに、小中一貫だより、コミュニティスクールだよりによる広報活動も充実させていきたい。